

あなたも一年で60食分の食べものを無駄にしているかも?!

～食品ロス削減のために、できることから始めよう～

大切なのは、一人ひとりが「もったいない」を意識して行動すること

家庭の食事だけでも、一人当たりの食品ロス量を試算すれば、1年間で約15キログラムに及び、60回（※）の食事分に相当します。（※一度の食事で食べるご飯の量を250グラムと仮定）一人ひとりが「もったいない」を意識して、日頃の生活を見直すことが大切です。

たとえば…

○賞味期限を正しく理解する

食品の期限表示は、「賞味期限」と「消費期限」の2種類があります。「賞味期限」は、『おいしく食べることのできる期限』です。賞味期限を過ぎてもすぐに廃棄せず、におい等の五感を使って食べられるかどうかを判断することも必要です。

○買い物は必要に応じて

必要な食品を、必要な時に、必要な量だけ購入しましょう。
例えば買い物に出かける前には、冷蔵庫の中をチェックしてみましょう！

○調理で作りすぎない/余ったら作りかえる

もし、食べきれなかった場合は、他の料理に作りかえるなど、献立や調理方法を工夫しましょう。下記の消費者庁ホームページでは、関係省庁、自治体、民間団体などの食品ロス削減に向けた取り組みについて紹介しています。取り組みの中には、調理方法などヒントになる情報もあるのでぜひご覧ください。
http://www.caa.go.jp/adjustments/index_11.html

☆食品ロスとは？

日本では、年間約1,788万トン※の食品廃棄物が出されています。このうち、食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は、約500～800万トンと試算され、我が国のコメの年間収穫量約813万トンにほぼ匹敵します。（※平成21年度推計）

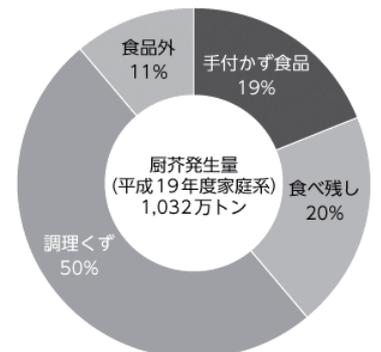
◆環境・循環型社会・生物多様性白書（平成23年度）より

環境省の試算では、こうした手付かず食品、食べ残しを75%削減することで、生産段階までさかのぼって考えると、約593万トン/年の廃棄物等発生抑制（日本全体の廃棄物等発生量の約1.0%）、約419万トンCO²/年の温室効果ガス排出削減（一般家庭約83万世帯分）が図られるという結果となっています。

一般廃棄物として廃棄された手付かず食品
（京都市調査結果より）



厨芥（生ごみ等）のうち、手付かず、食べ残し、その他ごみの内訳

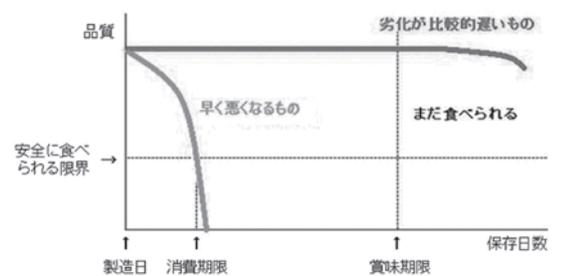


◆環境課

☎ 587 - 6003

FAX 587 - 3834

賞味期限と消費期限のイメージ



毎月第4土曜は 廃食油回収の日

5月25日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

104

【休館日】月曜日、7日 ※6日は開館 市民は入館無料

◆テーマ展「昭和のくらし—むかし・なつかし・モノがたり—」／6月30日(日)まで 展示解説…5月11日(土)午後1時30分～

◆弥生の森体験学習～ゴールデンウィークは家族で楽しむ!／毎週土曜・日曜日・祝日午前9時～午後3時 まが玉作り(約60分・500円)など



野洲駅の駅名標

なつかしの野洲駅

野洲駅は、市民をはじめたぐさんの人が日々利用し、親しまれる歴史ある駅です。今回は、昔の野洲駅の資料と写真を紹介いたします。

1889(明治22)年に鉄道が開通し、野洲駅はその2年後の1891(明治24)年に開業しました。当時、草津駅と八幡駅(現・近江八幡駅)の間にできた新駅で、滋賀県内では古い時期に誕生した駅の一つです。

写真は、野洲駅ホームの駅名標です。木製のしつかり

とした作りで、吊り下げる金具も残っています。大きさは縦65cm、横110cmで、近くで見るとひととき大きく感じられます。板面を空色の鮮やかな青地に塗り、手書きの白い文字で駅名や矢印を記しています。文字が片面のみに記されていることから、一番線、下り線ホームに掲げられていたと思われる。昔の野洲駅の資料はほとんど残っており、貴重なものです。

横書きの文字が右から左へ書かれており、戦前、

1945(昭和20)年以前のものです。また、守山駅が1912(明治45)年、篠原駅が1921(大正10)年に開業していることから、1921年から1945年の間に作られたと考えられます。昭和10年代に駅や鉄道に勤務していた人によると、この駅名標に見覚えがあり、とても懐かしく当時の風景が想い出されるということです。

もう一枚の写真は、1972(昭和47)年、今の駅舎に改修される以前の野洲駅の下り線ホームです。多くの人が乗り降りする時間帯で、電車を待つ乗客の服装から、ミニスカートが流行していたこと



野洲駅(下り線ホーム)1972年／八田正文さん撮影

もうかがえます。

野洲駅は1891(明治24)年に開業し、その後、1938(昭和13)年と1972(昭和47)年の二度改築され、現在の駅舎は三代目になります。この頃の野洲駅は、瓦葺きの平屋の駅舎でした。出入口は南口のみで、駅舎に入るとすぐ右側に売店がありました。改札を通るとすぐに下り線のホームへ入り、上り線へは陸橋を渡って行き来していました。円く大きな時計が吊るされていて、

時代を感じさせます。このホームの光景は、かつての国鉄駅舎によくみられるたまたまいで、懐かしむ人も多いと思います。

現在の野洲駅は、1972(昭和47)年に完成し、改札や売店などを陸橋の上に設けた橋上駅に大きく生まれ変わりました。この展示をご覧いただき、この何十年かのくらしの移り変わりや、まちの変化を感じていただく機会になれば幸いです。

(博物館学芸員 行俊勉)